

# 子どもと一緒におもちゃで遊ぶときの 「大人の心得」チェックリスト①

## 新生児～1歳台まで：論理的やり取りの土台づくり

- 大人の方が、一語文ではなしていないか（一つの単語だけの文）
- アイコンタクトをとっているか
- 子どもの反応を待っているか（働きかけをしたら反応を待つ）
- 子どもが見ているものに注目し、指差しを多用しているか
- 子どもの動きを言葉や動きで（大人が）まねをしているか

## 2歳前後：遊びの楽しさを広げる

- 大人の方が、赤ちゃん言葉や、子ども言葉を使っていないか
- 大人がおもちゃの操作の仕方を見せて子どもの反応を待っているか  
（無理に誘導しない）
- 「この消防車はどんなことをするの？」「誰が乗っているの？」  
など問いかけ、想像を促す声掛けをしているか
- キャッチボールのようなやりとりをしているか  
親：どうぞ→子：（受け取る） 子：どうぞ→親：（うけとる）  
「やりもらい」のあそび（かわりばんこ遊び/ボールをやりもらいする遊び）

## ■3歳前後：社会性を学ぶ

- 「この積み木は赤くて長い四角だね」など、正確に言葉で表現しているか
- 声の（小さい声・大きい声・無言）コントロールをして遊んでいるか
- スタート→ストップなど、動作を止める（制動）遊びを取り入れているか  
※動作を始めたり止めたりすることを遊びで覚えることで、外に出た時に急に駆け出す、飛び出すなどを防ぎ、道路でのふるまいを学ぶことにつながる（親＝社会性の代行→一緒に歩くことの安全性・ルールの理解の準備）
- ごっこ遊びなどで、生活の出来ごとの順番を一緒に考えて遊んでいるか  
例：ミニカー遊びで、車に乗って走らせるまでの順番を考える  
①扉を開けて②シートに座って③エンジンをかけて④走り出す
- 手指の器用さを高めるようなあそび（お絵描き/シールを決まった枠に貼るなど）をしているか
- 振付の順番を覚えてダンスをしているか  
（ただ体を動かすだけではない→ルーティンを覚える）

# 子どもと一緒におもちゃで遊ぶときの 「大人の心得」チェックリスト②

## 4歳ごろから6歳ごろ：理解と表現の機会を増やす

- 何をして遊ぶか、どうやって遊ぶか、意見を聞いたり、遊び方の希望を聞いたりしているか（ルールを一緒に考える）
- 役割を交換する遊びをしているか  
例：ピッチャー/キャッチャー、お店の人/お客さん、  
役割のある仕事：電車の車掌さん、歯医者さんなど、こどもがリーダーになるあそび
- 勝ち負けのあるゲームでは、どのようなルールか話してから遊んでいるか
- ゲームや遊びの中で、子どもの考えを言葉にする機会を増やしているか  
例：「どうしてうまくいったの？」「なんで負けちゃったんだろうね」など、  
子どもの考えをインタビューして言葉にしてもらう機会をつくっているか